

Ⅱ 研究の概要

1 研修主題

研修主題 「意欲的に学び続ける生徒の育成」
副主題 ～学びを深める単元づくりを通して～

2 研修主題設定の理由

情報化、グローバル化、少子高齢化等、生徒を取り巻く生活様式や考え方の変化が激しい今日、「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」「教科等の見方・考え方」を念頭に置いた新教育課程の理念が明示された。学校教育に求められていることは、子どもの「確かな学力」や「豊かな心」、「健やかな身体」の調和を図り、「生きる力」を育成することである。そして、生徒が生涯に渡って集団の中で自らの力を発揮し、自己実現を図ることができる資質・能力を培うことである。

昨年度、本校は、意欲的に学び続ける生徒の育成を目指して、アクティブラーニング型の授業改善に努めてきた。その結果、次のような成果と課題が挙げられた。成果としては、ワークシートや振り返りに書かれた記述内容や授業中の行動・発言内容の観察などから、課題に前向きに取り組み、友だちとの対話的な学びに意欲的に取り組む姿がみられるようになってきていることである。反面、課題として、①自ら進んで学習に取り組む姿勢が十分とはいえない。②話し合いを進め、協力して課題解決する学習姿勢に慣れつつあるが、話し合いによる思考の深まりが十分とはいえない。③学習を振り返り、学びを実感する姿がみられるようになっているが、次なる学習へ生かしたりする姿勢がまだ十分とはいえないことが挙げられた。

そこで、本校の課題を改善するためには、次のような授業改善の工夫が必要であると考えた。①生徒が必要感や興味関心をもって取り組めるような学習課題を設定し、学びを意図的・計画的に構想すること②友だちや地域の大人、先哲の考えに触れる経験をもたせ、考えを広げたり深めたりしていくような協働的な学習を工夫すること。③学んだことを振り返らせ、学びの価値を実感させることにより生じる新たな疑問を大切にし、次なる学習への意欲化を図ることなどである。

今年度より「アクティブラーニング」から「主体的・対話的で深い学び」という表記が変わった。しかし、基本的な考え方は同じものであり、本校は昨年度の研究成果と課題を基盤として継続研修を行うことにした。昨年度の研修を進める中で、「主体的・対話的で深い学び」は、単元全体の中で意図的・計画的に学びの場の設定・支援の充実を行うことによって成果があがることが確認された。そこで、本年度は「主体的・対話的で深い学び」を意図的・計画的に構想した「単元づくり」を通して、生徒の学習意欲の向上を図る研修を全職員で行っていきたいと考え、本主題を設定した。

3 研修のねらい

各教科の特性に応じて、「主体的・対話的な学び」を踏まえた単元構想における授業実践を継続して積み重ねることにより、主として思考・判断・表現力等の育成に努めなが

ら、意欲的に学び続ける生徒を育成する。

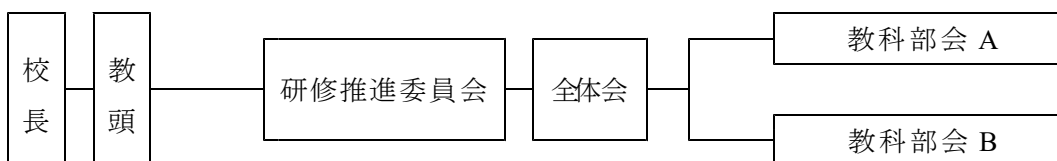
4 研修の内容

本校では、「主体的・対話的で深い学び」を適切に位置づけた単元構想を工夫し、一人1授業の実践を通して、その成果と課題を授業研究会で検討しながら、本校生徒の課題を克服すべくよりよい指導法の改善を行う。

- (1) 主体的・対話的で深い学びを取り入れた単元構想シートの作成
- (2) 目指す生徒像に照らし合わせた生徒の姿の見取り
- (3) 提案授業の様子や成果と課題の共有化

5 研修組織 ◎は主担当

	組 織	構 成 員	研修推進上の役割や主な研修内容
研 修 組 織 図	研修推進委員会	校長 教頭 教務 ◎研修主任 教科部会代表 A・B 遠藤・星野理	○研修計画の立案 ○全体会に提案する内容の協議 ○研修の課題の焦点化 ○授業実施詳細計画の作成 ○研修成果と課題のまとめ
	全体会	全職員	○研修内容の確認
	教科部会 A 6名	◎遠藤 岡田 篠澤 吉野 阿部 小西	○研修のねらいにそった指導案検討会の実施 ○授業の視点にそった授業参観の実施 ○授業検討会での良い点・改善点の意見交換 ○授業検討会での次回授業に向けての見通し
	教科部会 B 6名	◎星野理 笹口 岡野 倉澤 下山 星野希	○研修のねらいにそった指導案検討会の実施 ○授業の視点にそった授業参観の実施 ○授業検討会での良い点・改善点の意見交換 ○授業検討会での次回授業に向けての見通し



6 研修の経過

指は指導案検討 授は研究授業・授業検討会 □は校内研修, ○は部会研修

月日	内 容	研 修 の 視 点
4.10	1 本年度の研修について 研修主題、副主題の共通理解	・今年度の研修の主題・内容・方向性の確認 ・研修の内容の基本的共通理解と一人1授業者の決定 ・指導主事訪問B授業者の決定
5.8	2 本年度研修計画の確認 指導主事要請訪問Aに向けて NRT結果分析について ①部会別研修A・B	・研修計画書の検討と確認 ・指導案形式の検討と確認 ・各学年、各教科での分析依頼 ・各部会の組織作りと研修内容、計画の確認

5.17	3	指導主事要請訪問A	<ul style="list-style-type: none"> 学びを深める単元づくりの授業実践および授業検討会 研修についての指導、助言
6.12	4	A訪問指導助言の確認と提案授業について	<ul style="list-style-type: none"> 研修についての指導助言を踏まえた研修の方向性を見直し 研修について、今後の方向性の確認
7.3	5	研修の方向性確認と提案授業確認	<ul style="list-style-type: none"> 一人1授業の提案「篠澤」 部会別研修の成果と課題、今後の予定の確認
7.～		授篠澤教諭 1年 理科 ②部会別研修A	<ul style="list-style-type: none"> 一人1授業実践と部会別研修
9.4	6	B訪問指導案1次検討会	<ul style="list-style-type: none"> 一人1授業の報告「篠澤」 B訪問指導案検討①、今後の授業提案の確認
9.～		授下山教諭 3年 数学 ②部会別研修B 授岡田教諭 2年 国語 ③部会別研修A 授星野理恵子教諭 2年 理科 ③部会別研修B 授笹口教諭 1年 音楽 ④部会別研修B	<ul style="list-style-type: none"> 一人1授業実践と部会別研修
10.7	7	B訪問指導案2次検討会および最終確認	<ul style="list-style-type: none"> 一人1授業の報告「下山」「岡田」「星野理」「笹口」 部会別研修の成果と課題、今後の予定の確認 B訪問指導案検討②および最終確認 役割分担、参観の観点等の確認
10.13	8	指導主事要請訪問B 授倉澤教諭 2年 社会	<ul style="list-style-type: none"> 学びを深める単元の授業実践および授業検討会 研修についての指導、助言 公開研授業に向けての提案「吉野」「阿部」「岡野」
10.23	9	B訪問指導助言の確認と公開研授業に向けての最終確認	<ul style="list-style-type: none"> B訪問指導助言の確認 公開研授業の修正指導案最終確認 公開研授業に向けての準備、最終確認 役割分担、参観の観点、検討会等の確認
10.26	10	授業改善推進校公開授業 授吉野教諭 1年 数学 授阿部教諭 2年 体育 授岡野教諭 3年 国語	<ul style="list-style-type: none"> 一人1授業実践と授業検討会
11.6	11	公開研指導助言および成果と課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> 指導助言および成果と課題の確認 今後の授業提案の確認
11.～		授遠藤教諭 3年 英語 ④部会別研修A 授小西教諭 3年 社会 ⑤部会別研修A 授星野希教諭 2年 英語 ⑤部会別研修B	<ul style="list-style-type: none"> 一人1授業実践と部会別研修
12.18	12	指導助言の確認と研修の修正 研修のまとめ①	<ul style="list-style-type: none"> 成果と課題の明確化 研修経過に沿った研修主題・副主題の見直し 実践してきた全体、部会研修のまとめ
2.5	13	研修のまとめ②	<ul style="list-style-type: none"> 紀要や研究物の作成確認と分担 本年度の研修の成果と課題を確認 来年度の研修の方向性について検討 年間指導計画の見直し
3.5	14	引き継ぎ事項の確認 紀要の完成	<ul style="list-style-type: none"> 来年度へ向けての引き継ぎ事項の確認 来年度の研究主題、副主題の原案作成 本年度のまとめ

※その他の研修

月日	区分	講師	内容
4.25	特別支援研修	青木美穂子先生	・特別な支援を要する生徒への対応
5.8	食物アレルギー研修	青木香織先生	・アナフィラキシーショックの未然防止と対応
5.22	心肺蘇生法講習会	消防士	・心臓マッサージ、人工呼吸法、AEDの使い方

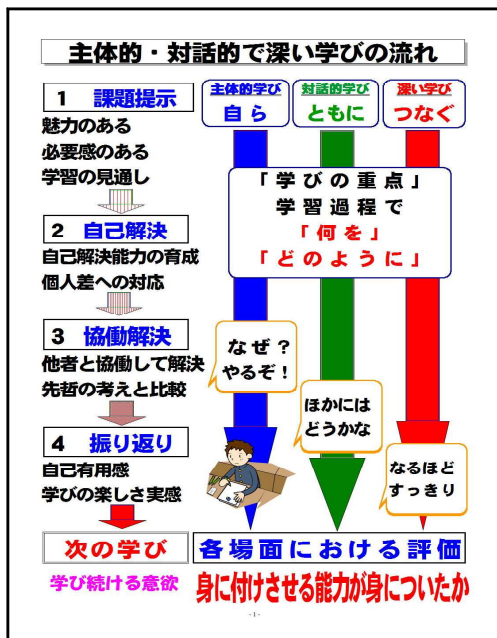
Ⅲ 実践内容

1 研究の基本となる内容

本校では、「主体的・対話的で深い学び」を適切に位置づけた単元構想を工夫し、一人1授業の実践を通して、その成果と課題を授業研究会で検討しながら、本校生徒の課題を克服すべくよりよい指導法の改善を行う。

(1) 主体的・対話的で深い学びを取り入れた単元構想シートの作成

本単元で身に付けさせたい力を明確にし、それを身に付けさせる手立てとして、主体的・対話的で深い学びをどこに、どのように位置づけるか設定する。さらに、それぞれの学びを学習活動の形で具体化して学習過程にして単元を構成することにした。本校の考える主体的・対話的で深い学びは、課題提示・自己解決・協働解決・振り返りという学習過程を基本とし、生徒が単元を貫く学習課題の解決を図るべく、意欲的に学び続けるような単元構成をA4版1枚の用紙にまとめ、教師が一目で共通理解できるよう工夫した。



〈単元構想の基本的考え〉

〈単元構想シート〉

(2) 目指す生徒像に照らし合わせた生徒の姿の見取り

本校では、主体的・対話的で深い学びと目指す子どもの姿を以下のように設定した。

【主体的な学び】 「自ら」 自分の考えを自らもち、振り返る学び
 〈目指す子どもの姿〉
 ア 学ぶことに興味関心をもつ。
 イ 見通しをもって粘り強く取り組む。
 ウ 自分の学習活動を振り返って次につなげる。
 エ 身に付いた資質能力を自覚する。

【対話的学び】 「ともに」 他とともに考えを広げ深める学び
 〈目指す子どもの姿〉
 ア 友達と協働して考える。
 イ 地域の大人と協働して考える。
 ウ 先哲(書物)の考え方を参考に考える。
 エ 十様な表現方法で考える。

【深い学び】 「つなぐ」 教科の「見方や考え方」につなげる学び

〈目指す子どもの姿〉

- ア 知識を関連づけて深く理解する。
- イ 情報をもとに考える。
- ウ 問題を見つけて解決する。
- エ 思いや考えをもとに練り上げる。
- オ 教科等の学習を社会（日常）と結びつけて考える。

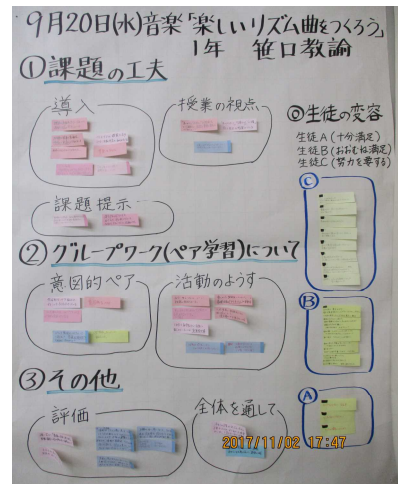
一連の単元学習を通して、生徒が目指す生徒像におおむね達成しているかどうかを、各教科のねらいや身に付けさせたい力をもとにさらに具体化し評価項目とする。そして、ワークシートや振り返りシートの記述、授業中の生徒の観察を通して評価する。

一人1授業では抽出生徒の変容を見取り、部会検討会のなかで手立ての有効性を話し合う研修を行う。具体的には、①授業中における抽出生徒の変容②単元構想における学びの手立ての有効性③その他気づいたことを付箋紙に書き込み、模造紙に貼り付けながらKJ法を用いて部会で検討し「検討会記録」として残している。

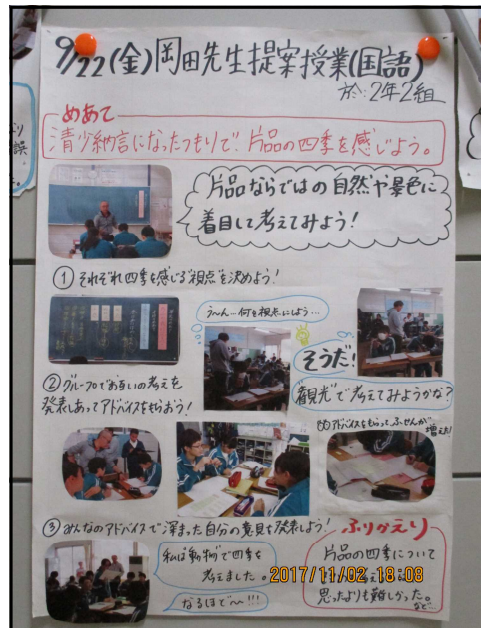
(3) 提案授業の様子や成果と課題の共有化

〈検討会記録〉

授業後には参観者による部会別授業検討会を行い、「検討会記録」としてまとめたものを推進委員が「校内研修推進だより」でA4版一枚のたよりの形でまとめ、職員全員に配布して、課題を共通理解するとともに次回の授業者に課題を引き継げるよう工夫した。授業を参観できなくても、現時点の課題が何かということ全員が共通理解を図ることで、課題を意識して一人1授業の単元構想をし、授業の質的な向上を目指すこととする。また、「授業記録」を模造紙に写真を交えて新聞形式にまとめ、廊下に掲示し、生徒にもどんな研究授業が行われたかがわかるように工夫した。



〈校内研修推進だより〉



〈授業記録〉

2 授業実践

実践例1 (1年・理科)

(1) 単元構想シート 「単元名：植物の分類」 実施月（7月初旬～）

目指す生徒の姿

花や葉、茎、根の観察の記録にもとづいて、それらを相互に比較し関連づけて考察し、植物のからだのつくりの特徴にもとづいて分類できる。また、シダ植物やこけ植物の観察を行い、胞子をつくることなど種子植物とのちがいを知ることができる。

学習課題

授業で観察した植物や、自分たちの知っている植物を、花や葉、茎、根など植物のからだの特徴を考えて分類してみよう！

単元の流れ (全7時間・本時6時間目)

【学びの重点】

主体的な学び

野外観察や植物を採取したりすることで、興味・関心を高める。また、採取した植物を実際に観察に使用することで、生徒の意欲を高める。今までの観察した植物やよく知っている植物を利用することで意欲的に学習に取り組めるようにする。

対話的な学び

班での意見交換を行う際には、今までの観察した記録や、学習した内容をもとにして行えるようにする。また、自分の考えを発表しやすく可視化するために、表やカードを利用できるように工夫する。お互いの意見を尊重し合えるよう、すべての考えを受け入れる配慮する。

深い学び

身近な植物を、花や葉、茎、根などの観察にもとづいて、それらを比較し関連づけて考察し、植物のからだのつくりの特徴にもとづいて分類できる。また、植物の特徴である「光合成」などにも着目しながら考えることで、植物への関心を深める。

【学習過程】

1 課題提示 (1時間)

①いろいろな植物の特徴をまとめていくことを知り、単元の見通しをもつ。野外観察にでて、今までには見たことのないような植物(シダ植物)を探す。

2 課題解決 (5時間)

②シダ植物の観察行い、維管束のようすや、葉の裏のものがはじけるようすを観察し、中から出てくる小さな粒の正体を考える。
③シダ植物の葉の裏の小さな粒の正体を知り、シダ植物とこけ植物は種子ではなく胞子で増えることや体の特徴を知る。
④いろいろな植物の根のようすを観察し、種子植物の主根側根・ひげ根による分類を知る。
⑤今まで観察した植物や知っている植物の特徴をカードにまとめる。
⑥植物を、花や葉、茎、根など植物のからだの特徴を考えて分類を考え、発表し合う。【本時】

・種子をつくらない植物や、葉脈や維管束の集まり方など、新しい特徴に気付かせる。
・今までに観察した植物を中心に分類できるよう、表やカードを利用させる。

・今までに観察した植物の名称を挙げたり、数えたりしながら、他にも多くの植物があることを示す。また、野外に出て、新たな植物観察を行う。

3 振り返り (1時間)

⑦野外観察を行いいろいろな植物を観察したり、自分たちの知っている植物の特徴を思い出し、植物を分類する。

(2) 本時の指導

授業の視点

「植物の分類を考える場面において、思考ツールを利用したことは、自分の考えをまとめたり発表するのに有効であったか。」

1 本時の目標

○植物カードを、植物のいろいろな特徴や基準を見つけて分類してみよう！

2 本時の準備

○ノート・教科書・カード・画用紙・付箋紙・学習プリント・実物投影機・テレビなど

3 本時の展開 (本時5時間目/6全単元学習時間)

過程	時間	学習活動 予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒支援	評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
課題提示	5	1. 本時の課題を知る。		
		課題 「植物カードを、植物のいろいろな特徴や基準を見つけて分類してみよう！」		
課題解決	15	2. 自分のカードを基準を決めて分類する。また、その基準を付箋紙に記入する。	○観察した植物やよく知っている植物の特徴をまとめたカードを並び替えながら分類を考えることを伝える。	○基準や理由が明らかでないが、植物カードを分類できる。 ◎植物カードを、植物のいろいろな特徴や基準を見つけて分類できる。 【思考】 (プリント・観察)
		★分類が全くできない。 ★分類をしているが、基準や理由がない。 ☆特徴や基準、理由を考え、分類している。	○前時までに作ったカードを使って、分類の基準を自分で考えて、分類する活動を行わせる。 ○分類の基準がはっきりしていれば分類は何通りに分かれてもよいことを伝える。 ○付箋紙に分類の基準を記入させ、理由が答えられるようにする。 ★カードの「花・子孫の増やし方」に着目して、分類をするようにさせる。 ★大きく分けて2つに分類できるような基準を決めるとよいことを伝える。(～ができるできない・～を持っているいない・～をするしない等) ★分類ができていない場合は、何故このように分けたのか理由を尋ね、基準を明らかにする。 ☆自分の基準を付箋紙に記入させる。	
		3. 分類した表をもとに特徴や基準も含めて説明しあ、交流をする。	○自分の分類を、見つけた特徴や基準も合わせて説明をするようにさせる。 ○質問の時間をとって、話し合いをさせる。 ○同じ考えの場合でも、そのことを伝えるようにさせる。	
		4. 自分の分類を見直しプリントに記入する。	○話し合いをもとに、自分の分類のしかたを見直す時間をとる。変更がある場合には基準や理由も含めて変更させる。また、変更がない場合でも、基準や理由を明確にするようにさせる。	
振り返り	10	5. 分類のしかたを、理由を含め発表する。教師の分類のしかたについて聞き、自己評価する。	○数名の生徒に発表させる。 ○子孫の残し方、花や葉・茎・根の様子などから分類できることを伝える。提示した分類方法は世界共通であるが、自分の分類も正しいことを伝える。	
		振り返り 植物カードを、分類の基準を見つけて植物の分類表をつくることができたか。	○プリントに自己評価を記入する。	

実践例2 (3年・数学)

(1) 単元構想シート

「単元名：2次方程式」

実施月(7月中旬～)

目指す生徒像

2次方程式について理解し、その解の意味を理解するとともに、それを利用して問題を解決することができる。

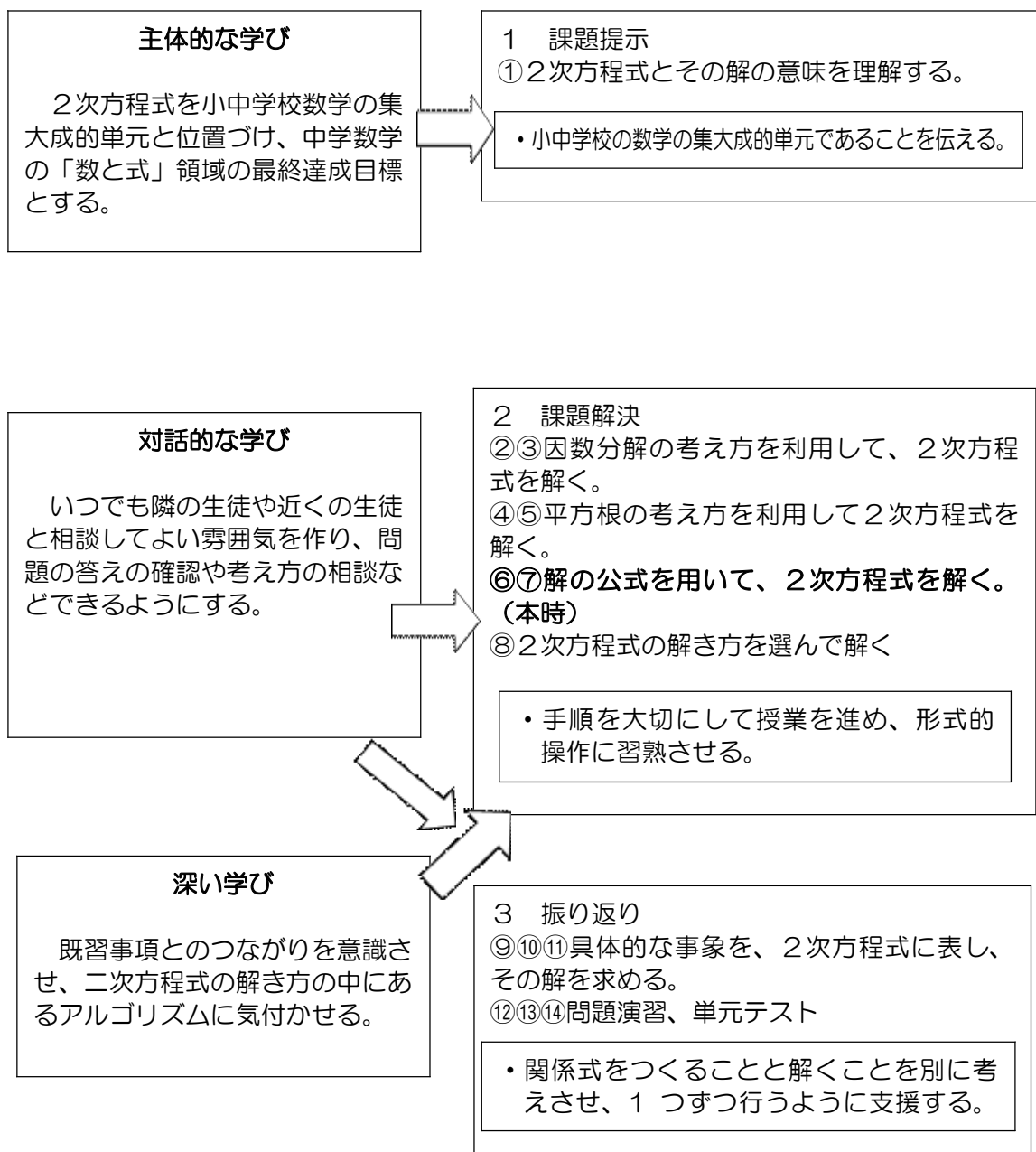
学習課題

2次方程式のアルゴリズムを理解しよう

単元の流れ (全14時間・本時6時間目)

【学びの重点】

【学習過程】



(2) 本時の指導

1 本時の目標

既習事項をつかって、解の公式をつくることができる。

2 本時の準備

教師 掲示用学習プリント、学習プリント 生徒 教科書、ノート、筆記用具

3 本時の展開 (本時6時間目 / 14時間)

過程	時間	学習活動 予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒支援	評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
課題把握	5分	1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">文字のまま2次方程式を解いて、2次方程式の解の公式をつくらう。</div>		
課題解決	5分	2 式操作を書きながら ① $2x^2 - 14x + 16 = 0$ を解く。 3 ①の式操作を意識しながら ② $3x^2 - 5x + 1 = 0$ を解く。 ★割れないどうしよう ☆分数になりそう 4 ②の式操作を意識しながら ③ $ax^2 + bx + c = 0$ を解く。 ★どうすればいいかわからない ☆手順を追えばできそう だ	★式をよく見て何をしているか考えさせる。 ☆周りの生徒と相談したり、教えあったりさせる。 ★①の式操作と同じことをすればよいと助言する。 ★②の式操作と同じことをすればよいと助言する。	○解の公式をつくることができる。 ◎2次方程式を解く手順を理解して、解の公式をつくることができる。 【技能】(プリント、授業の様子)
振り返り	5分	5 本時の学習を振り返る。		

実践例3 (1年・音楽)

(1) 単元構想シート 「単元名：楽しいリズム曲をつくろう」 (9月中旬～)

目指す生徒の姿

身近な言葉のリズムやまとまりを工夫して、簡単なリズム曲をつくることができる。
創作することの楽しさを感じることができる。 【第1学年 A表現(3)創作ア】

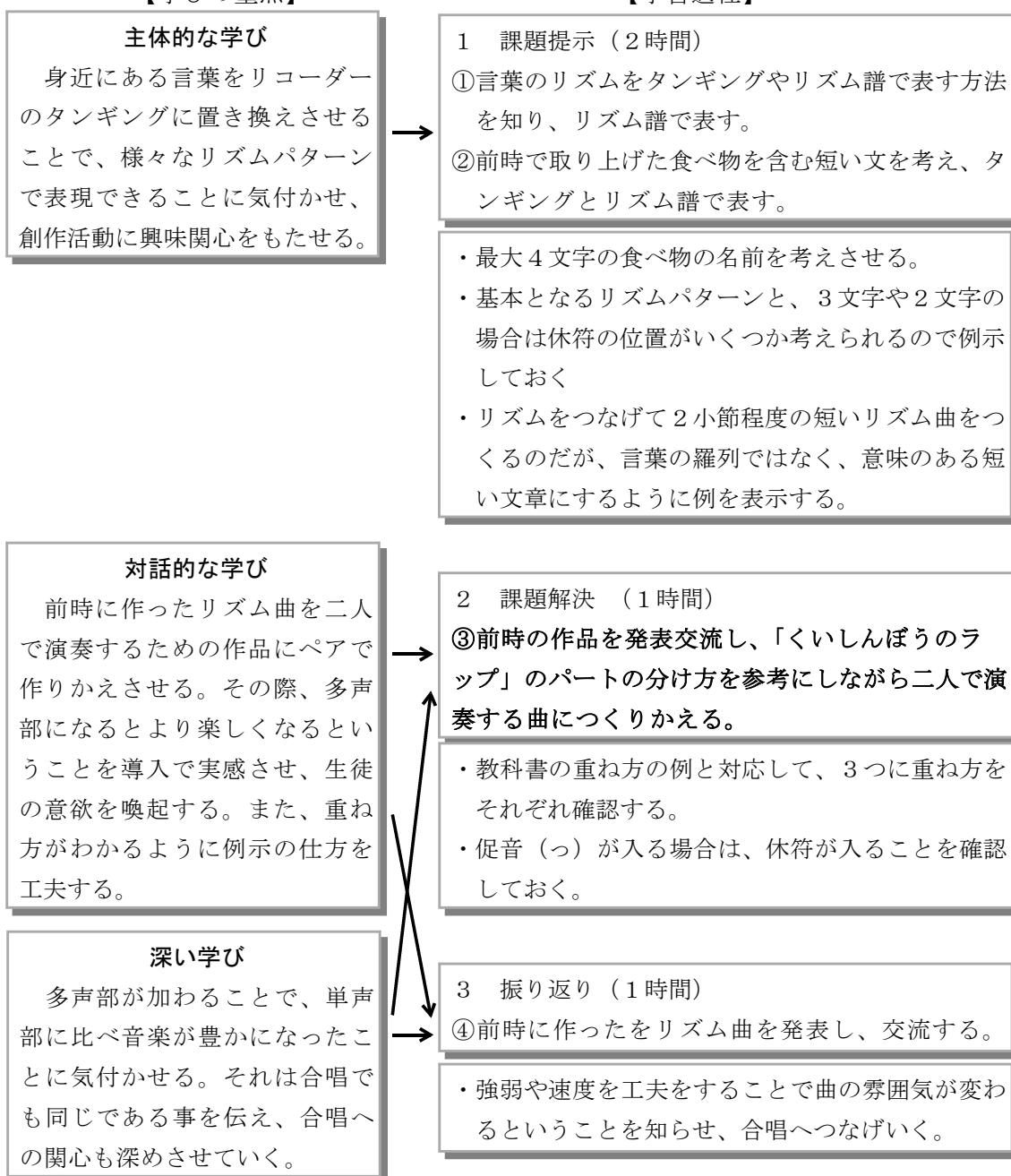
学習課題

言葉のリズムを使って、楽しいリズム曲を作ろう。

単元の流れ (全4時間・本時3時間目)

【学びの重点】

【学習過程】



(2) 本時の指導

授業の視点

パートに分けて演奏する曲につくりかえいく場面で、共通する題材ごとの二人組になり、始めに言葉での掛け合いをさせたことは、重なり方を工夫して創作していく活動に有効であったか。

1 本時の目標

身近な言葉のリズムやまとまりを工夫して、簡単なリズム曲をつくることができる。

2 本時の準備

教科書・ワークシート

3 本時の展開 (本時 3時間目/4)

過程	時間	学習活動	学習活動への支援・留意点	評価項目【観点】(方法)
		予想される生徒の反応 ★努力を要する生徒 ☆おおむね満足できる生徒	★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒支援	評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ●十分満足
課題把握	10分	1. 本時の課題を知る。 課題把握 「リズムの特徴やパートの役割を工夫して、二人で演奏する曲をつくろう。」		
課題解決	30分	2. 前時に作った作品を二人で演奏する作品につくりかえる。 ○言葉で掛け合いをして、組み合わせ方を工夫する。 ○重ね方を言葉で書いてから、リズム譜で表す。 〔予想される生徒の反応〕 ★互いに作った曲を同時に打っているだけで、重ね方がわからない。 ☆言葉のやりとりから重ね方を工夫し、リズム譜に正しく表すことができる。	・共通する題材ごとにペアをつくる。 ・「くいしんぼうのラップ」で3つの重ね方を確認し、最初は言葉でやりとりをさせる。 ・リズム表記の仕方を伝える。 ★重ね方を確認し、どの言葉をどう重ねたらおもしろいか考えさせる。 ☆リズムを繰り返したり変化させたりしてまとまりや終わり方を工夫させる。 ☆続きを考えさせる。	【音楽表現の創意工夫】 ○試行錯誤しながら、リズムの重ね方を考えている。 (観察・ワークシート) ◎言葉のリズムの特徴を生かしながら、リズムの組み合わせを考え、リズムの重ね方を工夫している。 (観察・ワークシート)
振り返り	10分	3. 課題を振り返り、ワークシートにまとめる。	・完成した生徒の作品をいくつか発表させる。工夫したことや気付いたことを書くように指示する。	
		振り返り 言葉の重ね方を工夫して、二人で演奏するリズム曲を作ることができたか。		

実践例4 (2年・国語)

(1) 単元構想シート 「単元名：枕草子に学ぼう」 (9月中旬～)

1. 目指す生徒の姿

枕草子を読み、古人のものの見方や考え方にふれ、自分達の住む片品村の四季を自分達なりに感じたことをとらえて歳時記を書いてまとめる。
【指導事項】伝国 ア「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」

2. 学習課題

片品の歳時記を作ろう

3. 学びの重点

主体的な学び【自ら】 ＜自分の考えを自らもたせる＞	対話的な学び【ともに】 ＜他とともに考えを広げ深める＞	深い学び【つなぐ】 ＜教科の見方や考え方につなぐ＞
古人のものの見方や考えかたにふれることで、昔の人と今の人の感じ方考え方に共感させながら、自ら感じたことを自由に表現する楽しさを味わわせる。	自分や友達、また、清少納言の季節のとらえ方の比較を通してものの見方の共通点や相違点を交流する。	清少納言の四季のとらえ方から学んだことを活用して、歳時記にまとめることで、自分達の地域の四季について考えを深めることができる。

4. 単元の流れ (全6時間・本時4時間目)

主な学習活動	学習活動への支援・留意点	評価項目					学びの重点			
		関	話	書	読	言	主	対	深	
1 課題提示 (1時間)										
①片品の歳時記を書く活動を行うことを知り、枕草子の学習について単元の見通しをもつ。	・歳時記について知り、片品の四季を冊子にして残す学習の見通しをもつ。	○						○		
2 課題解決 (4時間)										
②「春はあけぼの」を音読し、清少納言のとらえる四季のよさを整理する。	・「春はあけぼの」で学んだ四季の感じ方を参考にして、自分なりの感じた事柄を根拠をあげ歳時記にまとめる。	○			○			○		
③「春はあけぼの」の四季のとらえ方で共感できる部分を探し、根拠を明確にして班で話し合う。			○		○				○	
④自分達の感じる片品の四季のよさを考え、付箋に書き出して考えを出し合う。(本時)			○		○				○	○
⑤情報を整理しながら、歳時記を書く。				○				○		
3 振り返り (1時間)										
⑥歳時記をお互いに読み合い、自分達と清少納言のものの見方や感じ方を比べ清少納言のものの見方について考える。	・比較をとおして、枕草子のすばらしさを再確認することができる。		○		○				○	○

(2) 本時の指導

授業の視点

課題解決の場面において片品の四季について自分なりに感じたよさを考え、交流をさせたことは作者の思いになって想像する力を身に付ける上で有効であったか。

1 本時の目標

○片品の四季について自分なりに感じたよさを作者の思いになって想像することができる。

2 本時の準備

○思考ツールプリント

3 本時の展開 (本時○時間目/全単元学習時間)

過程	時間	学習活動 予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒支援	評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
課題提示		課題 清少納言になったつもりで、片品の四季を感じよう		
		1 音読することで「清少納言」の視点やものの見方を確認する。		
課題解決		2 清少納言の物の見方を活用しながら、片品の四季について感じたよさを考えて書く。 ★視点が決まらない。 ☆季節のよさが思いつかない。	・思考ツールに考えを付箋に書いて貼る。 ★「自然」「行事」「食べ物」「遊び」「植物」など例をあげ選ばせる。 ☆五感を使って感じたことを「春はあけぼの」を参考に考えさせる。	○片品の四季について「春はあけぼの」の学びを使って考えることができる。 ◎ユニークな視点で片品の四季のよさをとらえ、多角的にその根拠を考えることができる。
		3 グループで自分の感じたよさを交流して考えを広げる。 ★自分の考えがもてない。 ☆よさの根拠が考えつかない。	★友達に意見を求めてみんなで考えるよう促す。 ☆同じ視点をもった生徒に参考意見をもらうよう促す。同じ視点がいなければ班の課題として考えるよう促す。	【観点】読む (方法) 思考ツールプリント
振り返り		振り返り 「春はあけぼの」で学んだ四季の感じ方を活用して、自分の感じた片品の四季のよさを根拠をあげて考えることができたか。		

実践例5 (2年・理科)

(1) 単元構想シート 「単元名：動物のからだのつくりとはたらき」

「消化と吸収」・「呼吸のしくみ」・「血液のはたらき」・「排出のしくみ」

1. 目指す生徒の姿

動物が生命を維持する働きとして、必要な物を吸収し、血液によって色々な物質を運搬し、不要な物質を排出していることを、各器官の働きを関連づけて総合的に説明することができる。
【指導事項】第2分野(3)イ(ア)生命を維持する働き 「消化や呼吸、血液の循環についての観察、実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬している仕組みを観察、実験の結果と関連づけてとらえること。また、不要になった物質を排出する仕組みがあることについて理解すること。」

2. 学習課題

動物が生きて活動するために必要な物質は、体内をどのように移動するのだろうか。
--

3. 学びの重点

主体的な学び【自ら】 ＜自分の考えを自らもたせる＞ 日常である生命活動に目を向けさせ、自分の体のつくりや生命維持に関わる活動に関心を持たせる。視覚的な課題提示をし、疑問や予想を持って課題に取り組めるようにする。	対話的な学び【ともに】 ＜他とともに考えを広げ深める＞ 食べたもの・飲んだものが、体内でどのように変化し、便や尿として排出されるのか予想させ、どの器官がどのように関わっているのか、既習事項をもとに友だちと話し合わせる。	深い学び【つなぐ】 ＜教科の見方や考え方につなぐ＞ 模式図などを利用して、体内での物質の移動を、これまでに学習した体の各器官のしくみを関連づけて総合的に説明できるようにする。
--	--	--

4. 単元の流れ(全11時間・本時10時間目)

主な学習活動	学習活動への支援・留意点	評価項目				学びの重点		
		関	思	技	知	主	対	深
1 課題提示(1時間)								
①動物はどんな活動をして生きているのかを考える。体内で行われている働きやしくみを調べたり、考えたりしていくことを知る。	・日常での自身の生命活動に目を向けさせ、既習事項をふまえて、動物のからだのつくりと働きについて関心を持たせる。	○					○	
2 課題解決(9時間)								
②だ液によるデンプンの変化を調べる。 ③いろいろな消化酵素の働きを知る。 ④小腸の表面積と吸収について考える。	・実験操作の意味(反応時間・温度)等について話し合わせる。 ・3種類の栄養成分の消化・吸収について図を使って説明する。		○	○	○	○	○	
⑤動物ではどのようにしてエネルギーをとり出すのかについて話し合う。 ⑥肺のつくりと働きについて知る。	・植物のエネルギーの取り出し方と対比させて考えさせる。 ・模型を使って呼気と吸気のしくみを視覚的にとらえさせる。	○			○	○	○	
⑦心臓のつくりと働きについて知る。 ⑧血液の循環について図などを使って各器官の働きと関連づけて考える。 ⑨血液成分の種類と働きについて知る。	・心臓と各血管のつながり、動脈と静脈、動脈血と静脈血の違いについて、模型や図・モデルを利用し理解に役立てる。		○		○			○
⑩腎臓で尿がどのようにつくられるかを考える。(本時)	・模式図や実物を使って、腎臓の働きを確認する。		○				○	
3 振り返り(1時間)								
①体内での物質の移動を、これまでに学習した体の各器官のしくみを関連づけて総合的に説明する。	・模式図などを使い、視覚的に物質の流れがとらえられるようにする。				○		○	○

(2) 本時の指導

授業の視点

ブタの腎臓を用いて墨汁がろ過するようすを観察させたことは、腎臓のしくみについて、疑問や予想を持って考えさせたり、理解を深めたりするのに有効であったか。

1 本時の目標

○腎臓で尿がどのようにつくられるかを考えることができる。

2 本時の準備

○ワークシート、ヒトの体内での物質の移動の模式図 (拡大紙)、ブタの腎臓

3 本時の展開 (本時 10 時間目 / 11 時間)

過程	時間	学習活動 予想される生徒の反応 ★努力を要する ☆おおむね満足	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒への支援	評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
課題提示	10分	1. 既習事項の確認 ・消化管の働きについて確認する。 ・尿はどこでつくられるのか、どこを通過して排出するのか予想する。 2. 本時の課題を知る。	・ヒトの模式図に食べたものの移動経路と変化を書き入れさせる。 ・養分を吸収した後不要なもの多くは便として排出されることを確認し、尿はどこからくるのか質問する。	
課題 おしっこ (尿) のでき方を探ろう。				
課題解決		3. ブタの腎臓を使って、墨汁をろ過する実験を観察する。 ・なぜ、墨汁が透明になるのか疑問を持つ。 4. 腎臓の模式図を使って、腎臓がどのようにして尿をつくるのか考える。 ★墨汁や透明な液体が何であるかわからない。 ☆腎臓のろ過の機能について、具体的に説明できる。 5. グループで自分の考えを発表し、友達の考えを聞く。 6. 全体で、腎臓のしくみと働きについて確認する。	・動脈に墨汁を入れると、透明な液体となって出てくることを演示する。(別に腎臓の断面も用意しておく。) ・模式図を配布し、墨汁やろ過で残った墨、透明な液体が、実際では何にあたるかを考えさせる。 ★動脈を通過しているものが何であるか既習事項を振りかえさせる。 ☆他の器官との関わりについても考えさせる。	【科学的な思考・表現】 ○腎臓が血液中の不要な物質をろ過していることを説明できる。 ◎腎臓が不要な物質をろ過していることを、血管などのつくりやはたらきに着目して説明できる。 (観察・ワークシート)
振り返り		7. わかったことや疑問などをワークシートにまとめる。		
振り返り 腎臓で尿がどのようにつくられるかを考えることができたか。				

実践例6 (3年・社会)

(1) 単元構想シート 「単元名：私たちの暮らしと生活」

1. 目指す生徒の姿

自分たちの生活に経済が密接に関係していること（需要と供給、生産、消費、家計、公共事業）を理解し、生活の中で経済を活用できる。
【指導事項】 ア 市場の働きと経済 身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考えさせる。

2. 学習課題

コンビニの経営者になってお客のニーズに合ったお弁当を開発しよう

3. 学びの重点

主体的な学び【自ら】 <自分の考えを自らもたせる> 主ア 学ぶことに興味関心をもつ 顧客のニーズに合ったコンビニ弁当の開発に向けて、流通等を学び、消費者や生産者両方の立場から考えられるようになる。	対話的な学び【ともに】 <他とともに考えを広げ深める> 主ア 友達と協働して考える 自分自身では、気がつかないことを意見交換の場を設定することで、自らの考えを再度検討し、深めさせる。	深い学び【つなぐ】 <教科の見方や考え方につなぐ> 深オ 教科等の学習を社会（日常）と結びつけて考える とても身近にあるコンビニでも経済に着目すると自分達の知らないところで様々な工夫がある事を感じ取らせてる。
--	---	--

4. 単元の流れ (全10時間・本時1時間目)

主な学習活動	学習活動への支援・留意点	評価項目				学びの重点		
		関	思	技	知	主	対	深
1 課題提示 (1時間) ※本時								
1 コンビニの経営者となり、経済とは何かを自分なりに予想させ、課題設定を行う。	現時点での経済とは何かを自分なりに表現し、経済とは何かを明確にするに課題設定を行う。	○					○	○
2 課題解決 (8時間)								
2～5 消費者に与えられた権利を生産者側はどのような対策をして生産活動から利益を生み出しているのかを考える。	消費者に商品が届くまでの一連の流れから経済にどのような影響があるかを考えさせる。		○	○	○	○		
6～9 労働者の権利触れながら、経済活動がどのように行われているかを考える。	生産者も消費者であるということに気がつかせる。		○		○		○	
3 振り返り (1時間)								
10 経済をより豊かにするためにはどうしたらよいかを学んだことから考える。	コンビニの弁当の企画書を作成すると想定して経済を考えさせる。		○				○	○

(2) 本時の指導

授業の視点

コンビニの立地のメリット、デメリットを分析させたことは、経済に対する関心を深めるために有効であったか。

1 本時の目標

コンビニエンスストアの経営者の立場から立地や商品分析をすることで経済に関心をもつことが出来る

2 本時の準備

教師 掲示資料、学習プリント 生徒 教科書、ノート、筆記用具、ホワイトボード 10 枚

3 本時の展開 (本時 1 時間目 / 10 時間)

過 程	時 間	学習活動 (数字) 予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点
課 題 把 握	5 分	1 経済という言葉で思い浮かぶことは何かを考える。 ・為替、円高、円安、世界恐慌 2 コンビニについて日常生活での利用について聞く ・おにぎりを買う、ジュースを買うなど	★ 努力を要する生徒への支援 ☆ おおむね満足できる生徒支援 ・ニュースや歴史で学んできた事をもとに考えるように助言を行う。 ・どんな物を買うか、週に何回行くかなどに触れ、教科書のデータとの比較を行うことで、実際の結果を把握する。
課 題 解 決	4 0 分	3 イラスト地図からコンビニを建てる場所を選ぶ ・ワークシートへ選んだ理由を記入する 4 ABCDE の立地のメリット・デメリットを調べさせ、ホワイトボードに記入させる 5 各グループの代表に発表させ、黒板に整理させる 6 他のグループの意見を聞いて、改めてコンビニの設置場所を選ぶ。 7 商品のラインナップを文章で考える	・深く考えず、自分の予想で選択させる ・割り振りが、自分が選択した場所と異なっても、再度選択する際の判断基準となり、重要である事を伝え、必要性を持たせる。 ★メリットがデメリットを生み出す事もあることを伝え、検討させる ☆細かい部分まで気がつく事が出来ていた場合には賞賛し、さらに、資料から分かることはないか調べさせる。 ・意見が出なくなったら他の場所のメリット・デメリットを考えるように促す ・グループが発表後、付け加える事があれば発言させる ・ホワイトボードを使用して、生徒が再度選択した時に検討しやすいようにする ・設置の根拠がしっかりと書けることが大切であることを指示する ・板書を踏まえて再度検討させることを指示する ・立地条件、ニーズからラインナップを考えるように指示する ・教師が、具体的な例をあげ、その例のように文章で書くように指示する。
振 り 返 り	5 分	8 コンビニ経営を通して、経済の根本的なものは何かに触れ、単元の見直しを持たせる	・生産者や消費者があって経済活動が行われていることに気づかせ、企業や政府はどのような役割を果たしているのかを想像させ、単元の見直しを持たせる

実践例7 (2年・英語)

(1) 単元構想シート 「単元名：片品村について英語で紹介しよう！」

1. 目指す生徒の姿

新しく学んだ表現を使って片品村について紹介する文を英語で10文程度書くことができる。
【指導事項】書くこと イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

2. 学習課題

For Tokyo Olympic 2020 片品村を外国人に発信しよう！	3
---------------------------------------	---

学びの重点

主体的な学び【自ら】 ＜自分の考えを自らもたせる＞	対話的な学び【ともに】 ＜他とともに考えを広げ深める＞	深い学び【つなぐ】 ＜教科の見方や考え方につなぐ＞
主ア 学ぶことに興味関心を持つ 自分が暮らす片品村について紹介するという身近な活動を設定する。	対イ 多様な表現方法で対話する。 新出言語材料導入の際に、ペアや教師との対話の場面を多く設定し、自分の考えや身近な物について英語で表現できるようにする。	深オ 教科等の学習を社会(日常)と結び付けて考える。 自分達の住む片品村の良さについて考え、英語で発信できる力を養う。

4. 単元の流れ(全7時間・本時4時間目)		評価項目				学びの重点		
主な学習活動	学習活動への支援・留意点	関	表	理	知	主	対	深
1 課題提示(1時間)								
①他国の紹介文を聞いて、自分の村について紹介文を書くことを知る。	・モデル文を読んで、紹介文の書き方を確認する。				○			○
2 課題解決(5時間)								
②新出言語材料を用いて、片品にあるものについて紹介し合う。	・片品の観光マップを用いて、身近にあるものについて紹介させる。				○			○
③教師にそれぞれの場所になにがあるか質問する。	・be動詞の文の特徴に着目させ、指導する。				○			○
④動名詞を使って片品で楽しむことについて話す。(本時)	・ビンゴゲームで会話を多くさせ、定着を図る。		○					○
⑤⑥片品村についての紹介文を書く。	・モデル文を参考にさせながら、既習事項を用いて書くよう指導する。		○					○
3 振り返り(1時間)								
⑦片品村紹介プレゼンテーションを行う。	・ビデオを準備し、意欲を高めて発表に参加できるように工夫する。	○						○

(2) 本時の指導

授業の視点
ビンゴゲームでたくさんの人と会話活動を行う場面を設定したことは、動名詞を使った表現を定着させるために有効であったか。

1 本時の目標

動名詞を学び、片品で楽しむことを動名詞を使って英語で表現することができる。

2 本時の準備

ピクチャーカード、ビンゴプリント

3 本時の展開 (全 ⑥ 時間・本時 ④ 時間目)

学習活動と予想される生徒の反応	時間	学習活動への支援と評価【観点】(方法)
<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting ・ Warm-up (ビンゴ) 	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語学習に活発に取り組むことができる雰囲気作りを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会話文を聞いて動名詞の用法に気づく ・ Practice ピクチャーカードを用いて運用練習を行う ● ビンゴゲーム <予想される生徒の様子> ★ ビンゴカードが埋められない ★ スムーズに英語を読むことができない ☆ たくさんの人と積極的にビンゴ活動に取り組む 	5分 10分 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師のモデル対話の中に沼田市とカリフォルニアで楽しむことについての表現を用いる。 ・ ビンゴカードで動名詞の特徴を確認する。 <予想される生徒の様子への支援> ★ 練習で使ったピクチャーカードを用いたヒントカードを準備する。 ★ 十分な練習時間を取り、個別指導を行う。 ☆ 積極的に英語でリアクションを取りながら自然な会話に近づけるように相手を意識させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ Review Evaluation sheetを用いて本時の学習の振り返りを行う。対話で用いた表現を1つ記入する。 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時での活動での頑張りを認め、次時に生かすように声かけする。

実践例 8 (3年・英語)

(1) 単元構想シート「単元名：Program7 What Is the Most Important Thing to You?」

1. 目指す生徒の姿

教科書を通して考えたことを基に、自分にとって何が大切なのかについて発信できる。
【指導事項】 4話すこと イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

2. 学習課題

自分の大切なものについて考え、宇宙船地球号の一員になろう！

3. 学びの重点

主体的な学び【自ら】 ＜自分の考えを自らもたせる＞	対話的な学び【ともに】 ＜他とともに考えを広げ深める＞	深い学び【つなぐ】 ＜教科の見方や考え方につなぐ＞
主ア学ぶことに興味関心をもつ 教科書で大切なものについての発表を読み取りながら、自分の人生や生活にとって何が大切なのかを考えさせる。	対ア友達と協働して考える 互いに作った発表原稿を聞き合い、さらに詳しく知りたいと思ったことや足りない情報について英語で質問し合う。	深エ想いや考えを基に練り上げる 質問された情報をさらに自分のスピーチに加えてより内容の濃い、わかりやすい原稿作りを行い発表に臨む。

4. 単元の流れ (全13時間・本時10時間目)

主な学習活動	学習活動への支援・留意点	評価項目				学びの重点		
		関	表	理	言	主	対	深
1 課題提示 (1時間)								
①単元のまともに自分自身にとって大切なものは何かをクラスで発表することを知らせる。	・教師のモデル文を提示しながら、本単元で学ぶことへの動機付けを行う。	○					○	
2 課題解決 (10時間)								
②人について詳しく説明する。 ・関係代名詞を用いたカードゲームで口頭練習を行う。	・関係代名詞を用いることでより具体的な特徴を表現できることに注目させる。				○		○	
③ものについて詳しく説明する。 ・様々なものについて紹介する教師のOral Introductionを聞く	・先行詞がものか人かによって用いる関係代名詞が異なってくることを意識させる。				○		○	
④人や物について詳しく説明する関係代名詞の3つの用法について理解する。 ・クイズを考える。	・ワークシートを用いながら、様々な用法の違いを確認させる。		○				○	
⑤⑥ 教科書本文を読んで、山本敏晴さんや宇宙船地球号について理解する。 ・Oral Introductionで山本さんについて知り、英語でのQ&Aの英問英答に答える。	・Q&A を用いながら、内容の確認を行う。 ・リフレーミングを用いながら、本文の理解を促す。			○			○	
⑧世界の子どもたちの絵と説明文を読み、絵に込められた意味を理解し、内容をグループの友達に伝える。	・実際に世界の子どもたちに描かれた絵を見せながら、興味を引きながら意欲的に表現させる。		○				○	
⑨自分にとって大切なものが何かを考え、スピーチの準備を行う。	・自分の経験や考えを基に、既習の表現を用いながら考えさせる。				○		○	
⑩グループで互いのスピーチを聞き合い相手のスピーチには無い情報を質問で聞き出す。	・必要な情報を聞き出すための質問の仕方を確認する。 ・活発にコミュニケーションが取れるよう雰囲気作りに努める。		○				○	
⑪友達に聞かれた情報を自身のスピーチに付け足し、大切なもの発表会を行う。	・モデルを示しながら、相手意識をしっかりとるよう範示する。	○						○
3 振り返り (2時間)								
⑫お互いのスピーチに対してのコメントを伝え合う。	・英語で感想が述べられるよう、表現集を準備しておく。		○					○
⑬単元テストを行い、理解を確認する。	・学習事項の内容の確認を測る。			○			○	

(2) 本時の指導

授業の視点

英語の意見発表に向けての準備場面で、互いの意見についてグループで質問をし合ったことは自分自身の考えを深めさせる上で有効であったか。

1 本時の目標

○友達のことを聞いて、その考えについてさらに詳しく質問をすることが出来る。

2 本時の準備

○ワークシート、タイマー、

3 本時の展開 (本時10時間目/全13時間)

過程	時間	学習活動 予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆おおむね満足できる生徒支援	評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
課題提示	10	・ Greeting & Warm up		
課題 お互いの意見を聴き合って、その内容にさらに質問をし合って考えを深めよう				
課題解決		<p>・ 前時に考えた意見の練習を各自で行う</p> <p>・ ペアで互いの考えを発表し合った後に、その内容で不足していたことがらや、聞いていて興味をもったことについて英語で質問をする。</p> <p>★努力を要する生徒 相手の意見を聞き取れない、相手の意見に質問出来ない。 ☆おおむね満足できる生徒 相手の意見を聞き取り、それに対して英語で質問が出来る</p>	<p>・ 自信をもって発表できるよう声掛けを行う</p> <p>・ 発表する際は原稿だけでなく、相手意識をもたせて対話に臨ませる</p> <p>・ 声の抑揚やジェスチャーなど相手にわかりやすく伝える工夫をする</p> <p>★おおむね満足できる状況にさせるための手だて 補助の英問英問のワークシートから相手の意見に関わる質問を探し出させる ☆おおむね満足できる生徒への発展的な学習への手だて 既習の表現を用いさせ、はい、やいいえで答えるだけが無い応用的な質問を考えるよう指示する</p>	<p>○おおむね満足できる状況 補助ワークシートを用いて、英語で相手の意見について質問をすることができる</p> <p>◎十分満足できる状況 自分で聞き取った情報を元にさらに相手の内容について既習の表現を用いて質問できる 【表現】(見取り)</p>
振り返り		グループ活動の中で相手の考えを聞き、その内容について質問が出来たか。		
		・ Greeting	・ 本時の頑張りを賞賛し、次時への意欲を高めさせる。	

実践例 9 (2年・社会) B 訪問提案授業

(1) 単元構想シート 「単元名：中国・四国地方」

1. 目指す生徒の姿

中国・四国地方の地域的特色を、交通網の整備による他地域との結びつきを中核として地理的諸条件と関連づけて多面的に考察し、その結果を適切に表現している。
【指導事項】イ 世界と比べた日本の地域的特色 世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ我が国の国土の特色を様々な面から大観させる。

2. 学習課題

本州四国連絡橋がかかると生活や産業はどう変化するか。4コママンガで表そう。

3. 学びの重点

主体的な学び【自ら】 <自分の考えを自らもたせる> 中国・四国地方の交通網の変化をもとに、4コママンガを書くという意識をもたせ、自分から意欲的に課題解決に取り組ませる。	対話的な学び【ともに】 <他とともに考えを広げ深める> 班での意見交流をする際には資料を根拠に自分の意見を発表させる。また、自分の考えを発表しやすくするために付箋紙などを活用する。	深い学び【つなぐ】 <教科の見方や考え方につなぐ> 交通網の整備によって他地域と結びついたことによる利点や問題点を多面的・多角的に考察し、中国・四国地方の変化に気づくことができる。
---	---	---

4. 単元の流れ (全6時間・本時2時間目)

主な学習活動	学習活動への支援・留意点	評価項目				学びの重点		
		関	思	技	知	主	対	深
1 課題提示 (1時間)								
①本州四国連絡橋と椎坂トンネルの様子を比較し、どんな変化があったのか確認し課題を設定し、予想を立てる。	本州四国連絡橋と椎坂トンネルの様子から比較し、変化の様子を確認し課題を設定する。	○					○	
2 課題解決 (4時間)								
②本州四国連絡橋開通により、中国・四国地方の交通網の変化とそれに伴う人々の生活に及ぼす影響を考える。	本州四国連絡橋開通に伴う人々の生活、観光への影響を考えさせる。		○					○
③海上交通で栄えてきた瀬戸内の工業と、中国自動車道の開通による山間部工業のちがいをまとめる。	海上交通で栄えてきた瀬戸内の工業と、高速道開通による山間部の工業を比較しまとめる。			○				○
④気候の特色を生かして特色ある農業がおこなわれ、それらが首都圏に輸送されていることに気づかせる。	中国地方の農業の変容について、高知県の農業の変化の様子を中心に扱う。				○	○		
⑤過疎化が進んでいる地域では地域の持続発展に向けて、さまざまな努力がなされていることに気付かせる。	地域の持続発展に向けて、さまざまな努力がなされていることに気付かせる。					○		○
3 振り返り (1時間)								
⑥中国・四国地方について他地域との結びつきを踏まえて四コママンガにまとめさせる。	中国・四国地方で分かったことを交通網の変化を中心に、②～⑤の調査活動を基に考えさせる。		○					○

(2) 本時の指導

① ねらい

本州四国連絡橋の開通により、人々の生活、観光がどのように変化したかを考え、整理することができる。

② 準備

教師 教科書・学習プリント・資料・
生徒 教科書・ノート・資料集・地図帳

学習活動と予想される生徒の反応	時間	○学習活動への支援と◇評価【観点】(方法)
①本州四国連絡橋が整備されて、移動距離が短縮されたことを確認し、それによってどのように、生活が変化したのか予想させる。	10	○前時に予想を立てたものを掲示し、中国・四国地方の人々の生活を推測させる。 ○瀬戸大橋の写真を見せ、どのような変化が生まれたのかイメージをもたせる。 ○本州四国連絡橋ができたことで時間の短縮が片品に比べ劇的に変わっていることに触れる。
本州四国連絡橋ができて人々の生活、観光にどのような変化があったのか。必要な1コマを作ってみよう。		
②資料をもとに生活の変化について付箋紙に個人で記入させる。 ＜用いる資料＞ ①交通量の変化(瀬戸大橋、フェリーと自動車の交通量) ②岡山、香川の通勤通学者の数 ③フェリーの航路図と路線数の変化 ④深まる関西とのつながり ＜予想される生徒の反応＞ ★資料を読み解けない。 ☆資料を読み解くことができる。	15	○資料を読み取り、分かったこと付箋紙に書き、資料に貼り付けながら調べるように指導する。 ○資料からは複数のことが分かるものもあるのでじっくり取り組むように指示を出す。 ○机間支援をおこない、資料の着目する点について助言することで気づきを促したい。 ○資料から考えられることについても別の色の付箋紙に記入するよう指示を出す。 ＜予想される生徒の反応の具体例＞太字は考えられること ・岡山県と香川県の通勤、通学が増えた。 ・徳島県の人々は大阪まで買い物に行けるようになった。 ・フェリーの便数が減少している。廃止もある。 ・車の移動が増えた。 ・徳島県の商店は、大阪の店と競争しなければならなくなった。 ＜予想される生徒の反応への支援＞ ★簡単なものから取り組ませる。(資料①、②) グラフが何を表しているのか変化の割合はどの程度なのか確認する。 ☆賞賛し、次の資料に取り組ませる。また、見る視点を変えさせる。 ☆フェリーの移動の減少について、橋の架かっていない島ではどうなるのか考えさせる。
③グループで、分析した資料について、メリットやデメリットに分け、分類し、発表する。	15	○まとめるための観点や、好ましいこと、好ましくないことなどの視点を提示し、まとめる工夫に生かすように指示を出す。 ○似た意見は、まとめて発言してよいこと、付箋紙を友達と協力して移動してよいことの指示をする。
◆本州四国連絡橋の開通により、人々の生活や産業がどのように変化したかを考え整理している。 ◇本州四国連絡橋の開通により、人々の生活や産業がどのように変化したかを考え、観点を加えて整理している。【思考・判断・表現】(ワークシート 発言)		
④橋ができたことによる生活の変化についての印象的な内容について1コマと自分の言葉で表す。	10	○整理したことを踏まえて、1番印象に残ったことを1コマ書かせるさせる。班ごとにまとめた表を参考に考えさせる。 ○書き出しで迷う生徒には、「本州四国連絡橋ができたことで」に続くように書くよう指示を出す。
予想される生徒の姿 本州四国連絡橋ができたことで、交通が便利になり、観光や生活も便利になっている事が分かった。 本州四国連絡橋ができたことで、不便になる地域もあることに気づくことができた。		

実践例10 (3年・国語) 公開授業研究会授業

(1) 単元構想シート 「単元名：企画会議を開こう」

1. 目指す生徒の姿

合意形成を図る話し合いの場において、課題を解決するために自分と相手の考えを根拠をもとに比べたり、進行の仕方を工夫したりして効果的にまとめることができる。
【指導事項】A 話すこと・聞くこと エ「話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。」

2. 学習課題

目指せ採用！中学生議会で提案する企画案を検討し、まとめよう。 ～互いの考えを引き出し、生かし合おう～

3. 学びの重点

主体的な学び【自ら】 <自分の考えを自らもたせる> 主ア：学ぶことに興味関心を持つ。 実際に「中学生議会」で提案する内容を検討するために、話し合いの場（企画会議）を設定する。	対話的な学び【ともに】 <他とともに考えを広げ深める> 対エ：多様な表現方法で対話する。 小グループやクラス全体での複数回の話し合いを通して、互いの企画内容や発言の良さを認め合い、より良い考えを引き出し合えるようにする。	深い学び【つなぐ】 <教科の見方や考え方をつなぐ> 深オ：学習を社会と結びつけて考える。 合意形成のための話し合いであることを意識させ、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うことを、実践を通して身に付けさせる。
---	--	--

4. 単元の流れ（全⑤時間・本時③時間目）

主な学習活動	学習活動への支援・留意点	評価項目			学びの重点		
		関	話	言	主	対	深
1 課題提示（1時間）							
①中学生議会で提案する内容について、プレゼンテーションする企画会議を開くことを知る。	・既習の学習や教科書の例から、合意形成のために必要なことを確認させる。	○			○		
2 課題解決（2時間）							
②提案グループごとに提案する内容を企画書にまとめる。	・自分たちなりの企画書をまとめ、それをもとに少人数で発表し合う場を設け、互いの企画内容や発言の良さを認め合い、引き出し合えるようにする。		○			○	
③小グループで企画書を発表し合う。（本時）			○			○	
3 振り返り（2時間）							
④⑤企画書の見直し・修正を行い、作成した企画書をもとに企画会議を開く。	・企画会議を合意形成にとって有効だったこと、改善点、対話を上手に進めるポイントについて振り返らせる。			○		○	○

(2) 本時の指導

① 目標

○小グループで企画書を発表し合い、ファシリテーターの進行で互いに質問し合ったりアドバイスし合ったりすることで、互いの考えを引き出し、協力して話し合いを進めることができる。

② 準備

○教師 付箋紙、テレビ、タブレット

○生徒 前時に作成した企画書

③ 展開 (本時 3 時間目 / 5 時間)

学習活動と予想される生徒の反応	欄	学習活動への支援と評価【観点】(方法)
<p>1 本時の学習課題をつかみ、見通しをもつ。 ・本時の課題を知る。</p>	5分	
<p>小グループで企画書を発表し合い、ファシリテーターの進行で互いに質問し合ったりアドバイスし合ったりして、企画書を検討しよう。</p>		
<p>7 4人ずつのグループになって企画書を発表し合う。(1回目) ・発表・話し合いの仕方を確認する。 ・ファシリテーター1人、発表者3人のグループを作る。 ・ファシリテーターを中心に発表と意見交換を行う。 ・話し合いで出た意見を、ワークシートにメモする。</p> <p>3 1回目の話し合いを振り返り、良かったファシリテーターの進行のしかたを知る。 ・1回目の様子を録画した画像(代表グループのもの)を見て進行のしかたの手本とする。</p>	15分 ----- 10分	<p>・話し合いのメンバーややり方を確認し、ファシリテーターが中心になって進められるようにする。 ・ファシリテーター以外の生徒も、ファシリテーターに協力して話し合いを進めることが大切であることを伝え、みんなでよい話し合いを作り上げていくという意識をもたせる。 ・1回目の発表の様子を称賛する。 ・代表のグループの話し合いの様子を見せ、良かった点や改善点などを確認する。 ・よい進行が、互いの考えを引き出すことにつながっていることを気付かせる。</p>
<p>8 4人ずつのグループになって企画書を発表し合う。(2回目) ・ファシリテーター1人、発表者3人のグループを作る。 ・ファシリテーターを中心に1回目の振り返りを生かして発表と意見交換を行う。 ・話し合いで出た意見を、ワークシートにメモする。</p> <p><予想される生徒の様子：ファシリテーター> ★話し合いが停滞し、新しい意見が出ないまま、進行が進まないでいる。 ★意見は出るものの話が脱線しそうになったり、まとまらなくなっている。 ☆多くの発言を求めたり、みんなの意見を調整したりして話し合いを進めている。</p> <p><予想される生徒の様子：その他> ★別の班の発表に対し、意見を出せずにいる。 ☆別の班の発表に対し、意見を言ったり自分の班への質問に答えている。</p>	15分	<p>・1回目とメンバーを変えてグループを作る。その際、ファシリテーターも1回目とは違う生徒になるようにする。 ・1回目の振り返りを活かした発表になるよう、励ましの声かけをする。</p> <p><予想される生徒の様子への支援> ★1回目の振り返りを思い起こさせて、どのようにしていたか考えさせる。 ★場合によっては直接意見を求めたり、話題を変えたりするなど、ファシリテーターがリードするよう助言する。 ☆1回目の振り返りを思い起こさせて、どのようにしていたか考えさせる。 ☆話の流れを受けて話題を膨らませるような進行ができるよう伝える。</p> <p>★反対意見だけでなく、良い点を伝えることから始めるよう助言する。 ☆友達の見解を取り入れてさらに良い案がでないか考えてみるよう伝える。</p>
<p>【話す・聞く能力】(観察・メモ) ○多くの発言を求めたり、みんなの意見を調整したりして話し合いを進めている。 ○別の班の発表に対し、意見を言ったり自分の班への質問に答えている。 ◎話の流れを受けて話題を膨らませたり、互いの意見を尊重しながらまとめようとしている。 ◎友達の見解を受けて発言したり、友達のアドバイスを自分たちの提案に取り入れようとしている。</p>		
<p>5 本時の学習を振り返る。 ・本時の取り組みを賞賛する。 ・次時は今日の小グループで出た意見を提案グループで再確認した後、クラス全体で話し合いを行うことを確認する。</p>	5分	<p>・本時で学んだことを次時に活かすよう声かけする。</p>
<p>今日の話し合いで感じた大切なことは何か。次時に生かしたいことは何か。</p>		

実践例11 (2年・体育) 公開授業研究会授業

(1) 単元構想シート

単元名：器械運動「跳び箱運動」

1. 目指す生徒の姿

グループで仲間との相互援助活動を行い、技のポイントやコツ、修正点について話し合うことを通して、基本的な技を滑らかに跳び越えたり、自分に適した発展技で跳んだりする方法を考え、課題をもって練習することができる。

【指導事項】器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

(体育分野 第1学年及び第2学年 B器械運動(3))

2. 学習課題

3. 学びの重点

基本的な技を滑らかにできるようにし、条件を変えたり、発展させたりすることに挑戦しよう。

<p>主体的な学び【自ら】 <自分の考えを自らもたせる> 主イ：見通しをもって粘り強く取り組む。 滑らかに跳べるようになるためのポイントに気づき、自らの課題とその解決に向けて練習方法を工夫し、進んで練習に取り組むことができるようにする。</p>	<p>対話的な学び【ともに】 <他とともに考えを広げ深める> 対ア：友達と協力して考える。 個々の課題についてグループで技のポイントや動きの修正点について教え合ったり、説明し合ったりできるようにする。</p>	<p>深い学び【つなぐ】 <教科の見方や考え方をつなぐ> 深ウ：問題を見つけて解決策を考える。 自分の跳び方を振り返り、発見した動きのポイントやコツ、修正点などを自己評価表にまとめさせる。</p>
--	--	--

4. 単元の流れ (全⑧時間・本時④時間目)

主な学習活動	学習活動への支援・留意点	評価項目				学びの重点		
		関	思	技	知	主	対	深
1 課題提示 (2時間)								
①オリエンテーション ・学習の進め方や用具の準備、きまりについて確認する。	・今できる技と少し努力するとできそうな技を確認し、今後の課題を把握させる。 ・模範となる演技(動画等)と自分の動きを見比べ改善点のポイントを見つけさせる。	○					○	
②既習の技に取り組む。 ・既習の技について、現状を知り、今後の課題を見つける。			○					
2 課題解決 (5時間)								
③より滑らかに跳ぶためのポイントを全体で確認し、まとめていく。	・副読本や動画等から動きのポイントを見つけられるようにする。 ・自分自身の姿をより確実にイメージすることができるようにICTを活用したり、仲間と相互援助活動をさせたりする。 ・よくなったところを賞賛させ、次の課題に意欲的に取り組ませる。				○	○		
④⑤技の達成に向けて習熟を図る。 ・今できる技を美しく行うための課題を見つけ、解決に向けて教え合いながら取り組む。			○	○				○
⑥⑦発展の技に挑戦する。 ・少し努力するとできそうな技を習得するために、練習方法を工夫し、進んで取り組む。	・自分に合った技を選択し、安全に留意させ練習に取り組ませる。 ・練習段階に応じて複数の練習の場を用意する。		○	○			○	○
3 振り返り (1時間)								

⑧技の出来映えを披露する。 ・取得した技を見せ合い達成の楽しさや喜びを味わう。	・ICTを活用し、自身の動きも確認し上達した点を実感させる。			○					○
--	--------------------------------	--	--	---	--	--	--	--	---

(2) 本時の指導

① 目標

○課題を解決するための技能のポイントやコツを理解し、教え合い活動に生かすことができる。

② 準備

・掲示資料、学習カード、跳び箱、マット、セーフティマット、調節板、ロイター板

③展開 (本時4時間目/8時間)

学習活動と予想される生徒の反応	時間	学習活動への支援と評価【観点】(方法)
1 集合・整列・挨拶・健康観察 2 準備運動	10	○服装を整えさせ、体調を確認し、元気に挨拶させる。 ○各運動を正確に、丁寧に行わせ、できている生徒を褒める。 ○正確に行っている生徒、声をかけ合いながら活動している生徒を褒め、全体に広めていく。
3 本時の学習課題を確認する。 4 改善点を確認し、改善策を考える。(個人) 5 グループでお互いの動きを見合いながら、ループリック表を用いて、課題解決に向けた練習をする。(グループ) 〈予想される生徒の様子〉 ★役割がなく、グループ内で発言できずにいる。 ☆積極的に友達にアドバイスをしている。	35	○準備運動が終わり次第、できる跳び方にどんどん取り組ませる。 ○生徒を集合させ、本時の課題を提示する。 ○前時に作成したループリックで「踏み切り」「着手」「空中姿勢」「着地」に分けてポイントやコツを確認させる。 ○技に失敗しても、改善された点やできたポイントを賞賛し合えるように声かけする。 ○連続写真を用いて、何をどうすれば良いかを場面ごとにより具体的に相手に伝えられるようにさせる。 ★ループリックを教え合いの際の視点にさせる。 ☆実際の動きを示しながら教え合えるようにさせる。
6 練習の成果をループリック表で評価する。	5	○本時の活動を通して改善された点や達成のポイント等を記入させる。

7 本時の学習を振り返る。	○本時で学んだことを次時に生かすように伝える。
---------------	-------------------------

実践例12 (1年・数学) 公開授業研究会授業

(1) 単元構想シート 「単元名：比例と反比例」

1. 目指す生徒の姿

比例や反比例の考え方を習得し、日常生活にある関数関係を捉えたり、他教科等の学習に活用しようとしたりする。
【指導事項】 C関数イの(イ)比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

2. 学習課題

比例、反比例についての知識を活用し、身の回りにおける問題を解決しよう。

3. 学びの重点

主体的な学び【自ら】 ＜自分の考えを自らもたせる＞	対話的な学び【ともに】 ＜他とともに考えを広げ深める＞	深い学び【つなぐ】 ＜教科の見方や考え方をつなぐ＞
主ア：学ぶことに興味関心をもつ ・どの車を借りた方が得か説明する活動など、日常生活の関数関係にある事象を数学的に解決する場面を設定する。	対ア：友達と協働して考える ・目的に応じたペアや小集団による学び合う場を設定し、解決結果、方法及び考え方を説明し合い、比較検討させる。	深オ：学習を社会と結びつけて考える ・身の回りにおける様々な事象を関数的な見方や考え方から捉え、比例や反比例の関係が成り立つことを見だし、考察させる。

4. 単元の流れ (全⑲時間・本時⑰時間目)

主な学習活動	学習活動への支援・留意点	評価項目				学びの重点		
		関	思	技	知	主	対	深
1 課題提示 (2時間)								
①～②	・身近な事象で、二つの数量がどんな関係になっているか考えさせる。	○			○	○	○	
2 課題解決 (12時間)								
③～⑭	・比例や反比例の関係を、表、式、グラフに表して調べさせ、その特徴をまとめさせる。	○	○	○	○	○	○	
3 振り返り (5時間)								
⑮世界陸上マラソン優勝選手の各距離のタイムからゴールの時間を予想する。	・ラップタイムから、表やグラフにどんな特徴があるか考えさせる。	○				○		
⑯グループで、表、式、グラフからランドルト環と視力の関係を考える。	・表、式、グラフから視力とランドルト環の関係を考えさせる。		○				○	
⑰どちらの車を借りた方が得か、表、式、グラフを用いて考え、説明する。(本時)	・知識構成型ジグソー法を取り入れ、質問やアドバイスなどの相互交流を通して、グループで協力して考察させる。	○	○					○
⑱表をもとに、様々な対応をする二つの数量について、規則性を探り、関数の問題を作成する。	・比例や反比例などの関数関係の表を提示し、空欄を埋めさせ、規則性や特徴について説		○					○

⑱ 具体的事象を例示しながら比例、反比例の変化の様子を説明し、レポートにまとめる。	明させる。								
	・表、式、グラフ、変域の必要性を表現させる。	○					○		

(2) 本時の指導

- ① 目標 レンタカーを借りて遊園地に出かけるとき、出発地からの距離と総費用の関係を、表、式、グラフを用いて考察し、A、B社のどちらの車を借りれば得か判断し、その理由を数学の用語を用いて説明することができる。
- ② 準備 生徒：教科書、ノート、問題集
教師：教科書、レディネス学習、学習プリント、ホワイトシート、マーカー
- ③ 展開 (本時17時間目 / 19時間)

学習活動と予想される生徒の反応	時間	学習活動への支援と評価【観点】(方法)
◇ 家庭学習 ○レディネス学習に取り組む。	50 (家庭)	<ul style="list-style-type: none"> ・[資料1]、[資料2]、[資料3]をそれぞれ7～8名に配布し、本時の課題について予習をさせる。 ・情報を整理分析するために、次の3つの視点について考えさせる。 <ol style="list-style-type: none"> ①どんな情報が資料から読みとれるか。 ②課題解決にどんな情報が必要か。 ③どうすれば、得かどうかを比較することができるか。
<p><生徒に事前配布する資料></p> <p>[資料1] あなたは、家族4人で車を借りて、120km離れた遊園地に行くことを計画しています。A、B社のどちらの車を借りた方が得か、考えましょう。</p> <p><情報> ①A、B社のレンタル料と4人が乗車した際の車の総重量 ②出発してからの時間と移動距離との関係を表した表と旅行時間 ③車の総重量と燃費との関係を表したグラフ ④1Lあたりのガソリン代</p> <p>※ [資料2]、[資料3]は、情報②の数値を変えたもの</p>		
1 課題を把握する ○本時のめあてを提示する。 [比例・反比例の知識を活用し、課題を解決しよう。] ○課題を提示する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れについて確認する。
<p>学習課題</p> <p>あなたは、家族4人で車を借りて、遊園地に行くことを計画しています。A、B社のどの車を借りた方が得か、分かりやすく説明しよう。</p>		
2 課題を解決する。 ① [エキスパート活動] ○ [資料1]、[資料2]、[資料3]それぞれ同じプリントを考えた生徒が集まり、グループで求め方や答えが正しいか確認する。	30 ⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの資料について意味が把握できているか、分からないことがないか確認させる。 ・[資料1]－①, ②班、[資料2]－①, ②班をT1、[資料3]－①, ②班をT2が担当する。 ・情報交換を行い生徒の状況を把握する。
<p>予想される生徒の反応</p> <p>[資料1] 移動時間…4時間 滞在時間…6時間 [資料2] 移動時間…3時間 滞在時間…7時間 [資料3] 移動時間…6時間 滞在時間…4時間</p> <p>A社…レンタル料17000円, 燃費12km/L, ガソリン代2400円 B社…レンタル料15000円, 燃費8km/L, ガソリン代3600円</p>		

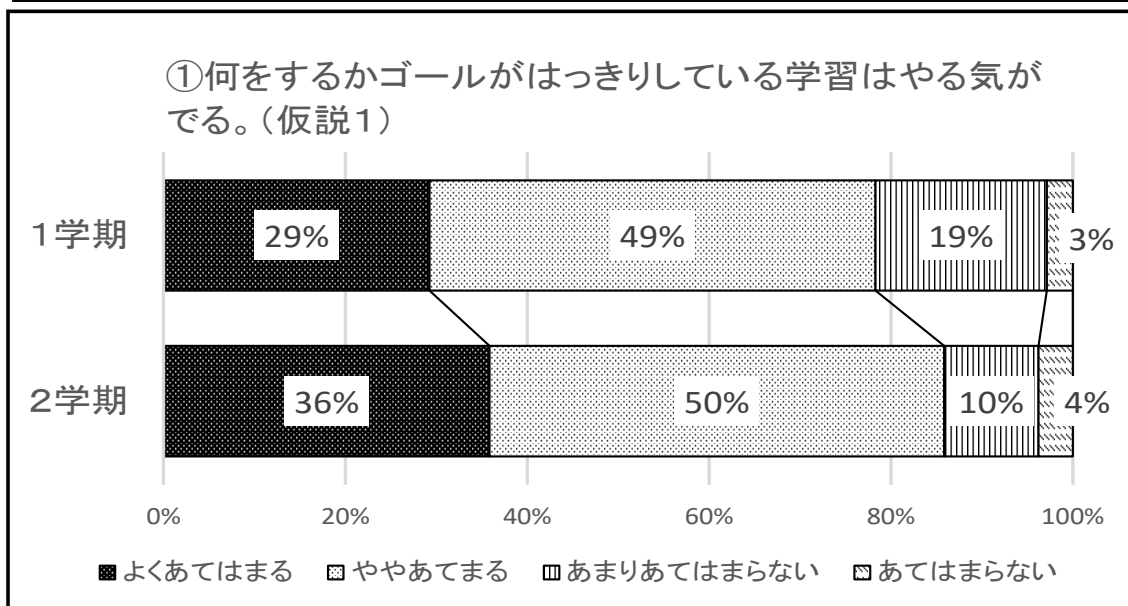
	<p>★グループでの思考が停滞している場合は、代表1名が他のグループをまわり、参考にさせる。 ☆間違いがある場合は、正しく理解している生徒に説明してもらい、間違いを訂正させる。</p>																				
<p>② [ジグソー活動]</p> <p>○ [資料1]、[資料2]、[資料3]、別々のプリントを考えた生徒が集まり、A、B社のどちらの車を借りた方が得か、グループで考える。</p> <p>予想される生徒の反応 ○移動距離とガソリン代の関係を表に表すと</p> <p>A社</p> <table border="1" data-bbox="260 656 600 723"> <tr><td>x(km)</td><td>0</td><td>120</td><td>240</td><td>360</td></tr> <tr><td>y(円)</td><td>0</td><td>1200</td><td>2400</td><td>3600</td></tr> </table> <p>B社</p> <table border="1" data-bbox="260 752 600 819"> <tr><td>x(km)</td><td>0</td><td>120</td><td>240</td><td>360</td></tr> <tr><td>y(円)</td><td>0</td><td>1800</td><td>3600</td><td>5400</td></tr> </table> <p>A社…17000+2400=19400 B社…15000+3800=18800</p> <p>B社で借りた方がお得</p> <p>○移動距離とガソリン代の関係を式に表すと</p> <p>A社… $y = 10x$ $15x - 10x = 17000 - 15000$ B社… $y = 15x$ $5x = 2000$</p> <p style="text-align: center;">$x = 400$</p> <p>移動距離が400kmまではB社がお得 ○移動距離とガソリン代の関係をグラフに表す</p>	x(km)	0	120	240	360	y(円)	0	1200	2400	3600	x(km)	0	120	240	360	y(円)	0	1800	3600	5400	<p>⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4人のグループをつくり、協力して考察し、ホワイトシートに記入させる。 ・1～3班をT1、4～6班をT2が担当する。 ・表、式、グラフを用いた説明のそれぞれのよさが分かるようにグループ指導を行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><表>：グラフの変化の様子と対応して数字の変化の様子がよく分かる。表に表すことによって、関係を見いだすことができる。</p> <p><式>：具体的な数字を求めることができる。</p> <p><グラフ>：傾きの大きさによって、費用の変化が一目で分かる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・5分後、情報交換を行い生徒の状況を把握する。 ・全体に発表させる種類の違う説明を選ぶ。 <p>★つまづいている生徒には、グループの生徒に質問させる。 ☆グループの生徒からの質問や考察について、アドバイスをさせる。</p>
x(km)	0	120	240	360																	
y(円)	0	1200	2400	3600																	
x(km)	0	120	240	360																	
y(円)	0	1800	3600	5400																	
<p>③ 全体で検討する。 [クロストーク活動]</p> <p>○グループで考えた考察を、全体で発表する。</p>	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導により、3グループを指名し、問題をどのように整理したかを全体で発表させる。 ・グループ内で分担させ、全員に発表させる。 ・反比例のグラフを読み取る場面や必要なガソリン代を計算する際、比例の考えを使うことなどを振り返らせる。 <p>★表、式、グラフを関連させて考えるよさを感じさせる。 ☆他のグループの発表から、課題に対してさらに深く考え、質問させる。</p>																				
<p>3 個人で考察をまとめる。</p>	<p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで整理分析したことや、全体の発表を受けて、その結果を相手に分かりやすく伝えるためには、どう説明すればよいかを考えさせ、自分なりにまとめさせる。 ・解答の様式は自由とする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【数学的な見方や考え方】(学習プリント、発表、観察)</p> <p>○比例、反比例とみなせる数量関係を表やグラフから見いだし総費用を比較し、判断した理由を説明している。</p> <p>◎比例、反比例とみなせる数量関係を表やグラフから見いだし総費用を比較し、判断した理由を表、式、グラフを関連付けながら筋道立てて説明している。</p> </div>																				

4 課題を振り返る。 ○本時のめあてについて、自己評価する。	5 ・本時の課題を解決するとき、学習してきた比例や反比例の何が役に立ったか、どんな考え方が大切であるかを記入させる。
-----------------------------------	--

3 アンケート結果および分析

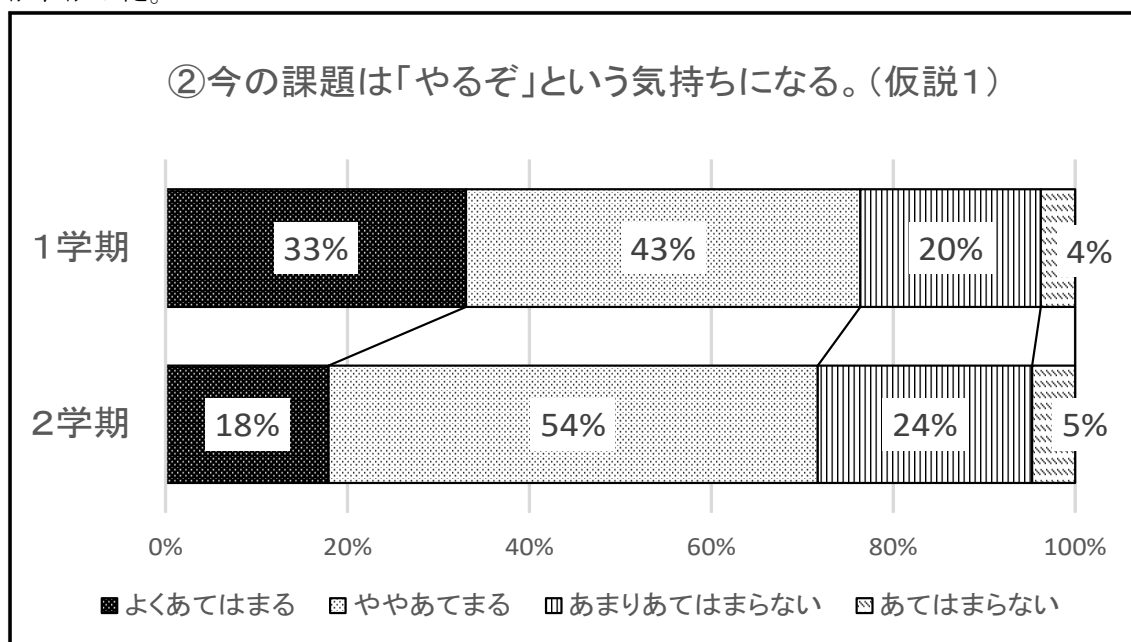
「主体的・対話的で深い学び」に関するアンケートを1学期と2学期に実施した。授業に関するアンケート項目および結果は以下の通りである。4段階評価で実施した。

1 何をやるかゴールがはっきりしている学習はやる気がする	「見通し」
2 今の課題は「やるぞ」という気持ちになる	「主体的な学び」
3 今の学習は友だちと「ともに考える」ことができる	「対話的な学び」
4 今の学習はよくわかり「すっきりする」ことができる	「深いまなび」
5 今の学習は「またやりたい」という気持ちになる	「振り返り」

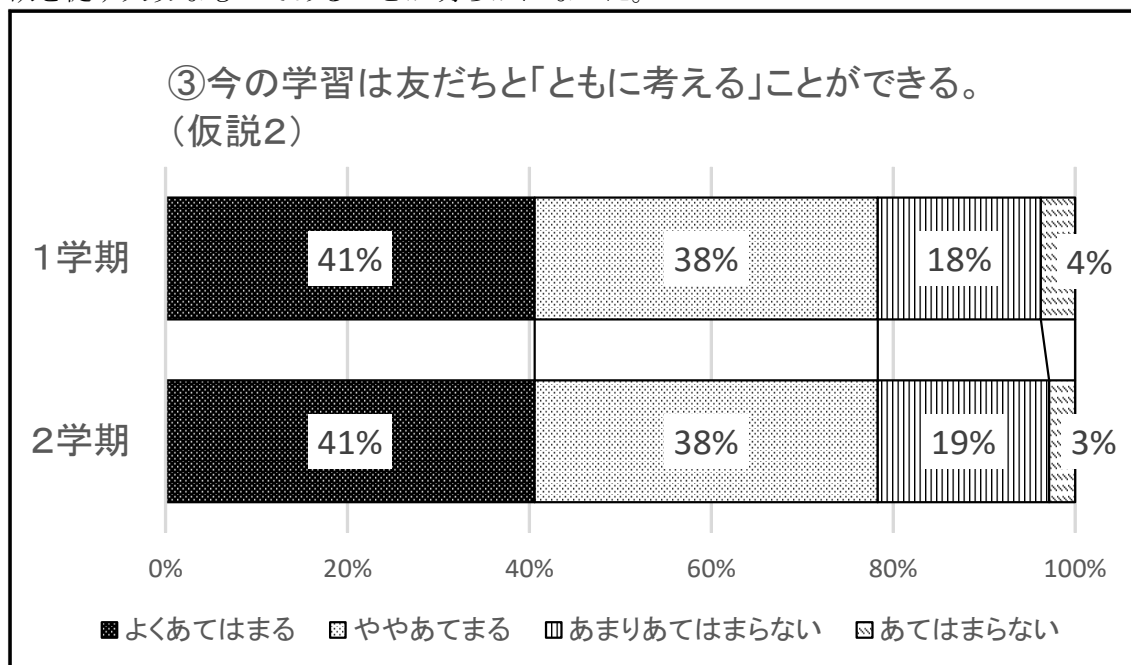


「①何をやるかゴールがはっきりしている学習はやる気がする」への回答は、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が8%増加した。単元構想するとき、この単元でどのような力を身に付ければよいかということを教師と生徒がともに見通しをもち、単元を構成する1時間の意義を理解して学習に取り組ませることは生徒の学習意欲を喚起すること

がわかった。

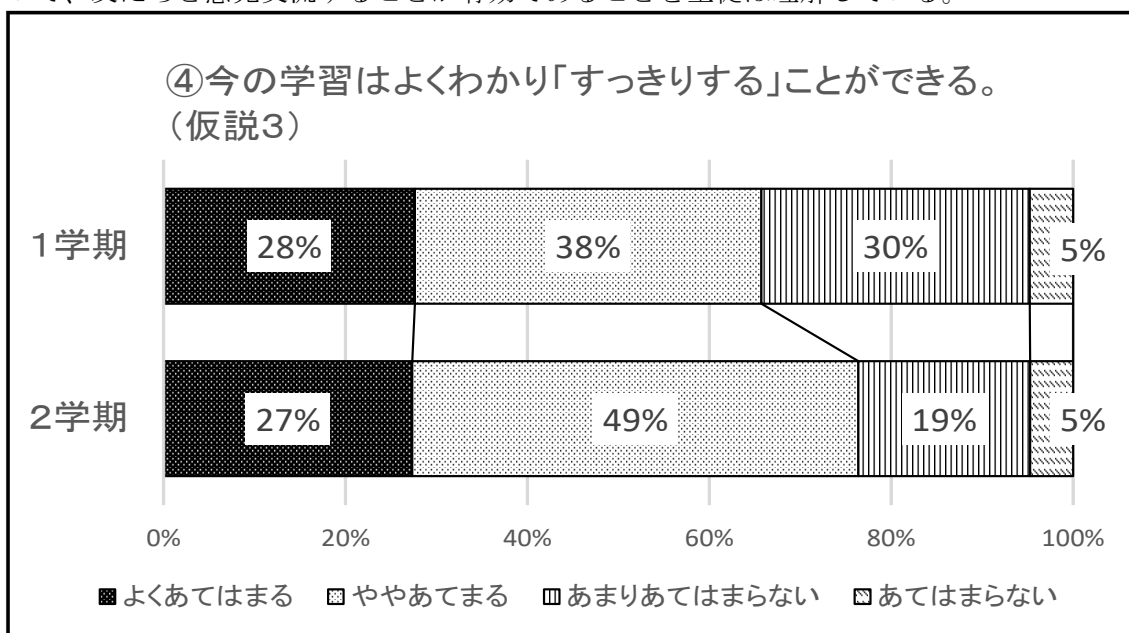


「②今の課題は『やるぞ』という気持ちになる」への回答は「よくあてはまる」「ややあてはまる」が4%減少した。今の単元の課題設定は、教師が教える内容から工夫した課題が多かったことから、自分から取り組もうという生徒の主体性を引き出すことができなかった。このことから、生徒自らの疑問や興味から作り出された課題が主体的な学びの意欲を促す大切なものであることが明らかになった。

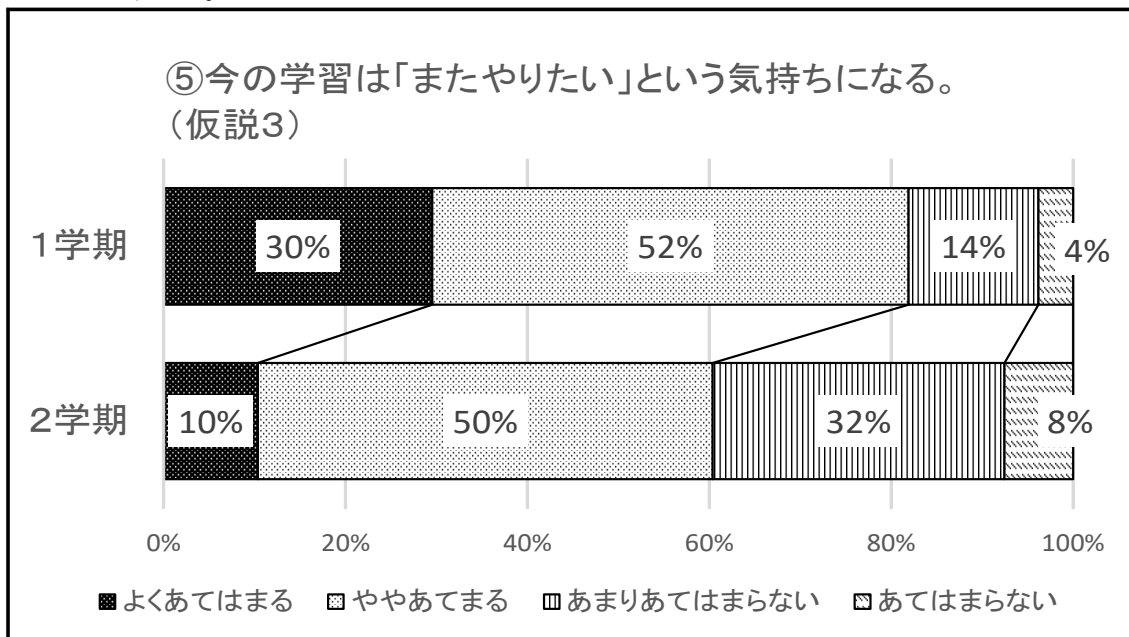


「③今の学習は友だちと『ともに考える』ことができる」への回答は、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が同じ数値であった。対話的な学びにおいては、昨年度のアクティブラーニングの研究においても繰り返し行っており、本校の中核的な学習活動となっているので生徒の意識にも定着したと考える。新しい取組というよりは、思考をするにあた

って、友だちと意見交流することが有効であることを生徒は理解している。



「④今の学習はよくわかり『すっきりする』ことができる」への回答は「よくあてはまる」「ややあてはまる」が10%増加した。この結果から、本研究における単元づくりを通して理解を深める実践は、生徒がわかったという実感をもてる深い学びに有効な手立てであると考えられる。



「⑤今の学習は『またやりたい』という気持ちになる」への回答は「よくあてはまる」「ややあてはまる」が22%減少した。またやりたくなるような気持ちにならない原因として、振り返りの工夫があげられる。単元のまとめとして学びの実感をもたせる振り返りの効果は、昨年度の研究からも実証済みだが、次の学びへつなげる振り返りの工夫が必要である。

VI 研修のまとめと今後の課題

1 研修のまとめ

昨年度のアクティブラーニング型の授業実践の研修を基盤とし、今年度は「学びを深める単元づくり」とおして、「主体的・対話的で深い学び」の指導法のあり方を追究した実践を行った。研修の成果は以下の通りである。

- (1) 単元構想シートを作成し、単元を見通した課題を設定したことで、単元を構成する1時間ごとのめあてが筋の通ったものになり、生徒が必要感をもって本時の学習に取り組み見直しをもって意欲的に学ぶことができた。
- (2) 自己の考えをもち、様々な考えをもつ他者と対話する機会を設定したことで、自らの考えを広げたり深めたりする学びにつながった。対話的な学びは、学習意欲を高めたり、理解を深めたりするのに有効な手立てであることがわかった。特に、「互いの考えを比較すること」「多様な情報を収集すること」「先哲の考え方を手がかりに考えること」など主にインプットの視点で望ましい姿が見られた。
- (3) 単元構想された一連の学習を通して、「知識・技能を習得する」「自分の思いや考えと結びつける」など深い学びを実感できた生徒の姿を見ることができた。また、振り返り活動により、自己の思考を整理し再認識させることで、自らの学びを実感することができた。深い学びは、学んだ知識を活用して考える力を育むうえで有効であることがわかった。
- (4) 校内研修全体の成果として、主体的・対話的・深い学びにおける本校の生徒像を具体的に定めることができたことがある。また、単元構想シートで学びを視覚化することで、全職員が一人1授業の視点を明確にして参観することができた。さらに、授業検討会も充実しており、「研修推進だより」「授業記録」などで共通理解を図ることができた。

2 今後の課題

- (1) 単元構想シートをさらによいものに改善していくことと各教科の年間指導計画にきちんと位置づけることにより、継続的な実践となっていくと考える。また、教科横断的な単元構想の工夫など様々な視点で工夫した単元づくりを継続して行い、主体的・対話的で深い学びの単元を計画的に増やしていくことが必要である。
- (2) 学習課題の設定には、教師の思いだけではなく、生徒の疑問や興味関心などを考慮した工夫が必要である。また、次の学びへつなげるように振り返りを行い、学習課題の設定に生かすような工夫も必要である。それにより、生徒が自ら生み出した課題意識をもつことができ、より主体的な学びが期待できると考える。
- (3) 対話的な学びにおいては、思考を表現に置き換えたり、共に考えを作り上げたり、多様な手段で説明するなどアウトプットさせる活動をさらに充実させる必要がある。
- (4) 深い学びにおいては、自分の考えを形成したり、新たなものを創り上げたりするなど創造的、発展的な学びをさらに充実させていく必要がある。